

一人ひとりがはじめる  
認知症の人を支える“まちづくり”  
(仮称)  
～ 藤沢おれんじプラン ～

<構成案>





# <目次>

1. 背景及び趣旨	2ページ
2. 認知症の人の状況	3ページ
(1) 全国の状況	3ページ
(2) 本市の状況	4ページ
3. それぞれの立場からの認知症	5ページ
(1) ご本人からの声	5ページ
(2) ご家族からの声	5ページ
(3) 地域からの声	6ページ
(4) アンケート調査からの声	7ページ
4. 現在の取組	9ページ
(1) 各機関での取組	9ページ
(2) 相談・介護事業所関係等での取組	9ページ
(3) 民間企業での取組	10ページ
(4) 認知症カフェ・家族会等での取組	10ページ
(5) 地域での取組(全13地区)	11ページ
5. めざす地域社会像	16ページ
6. 認知症の人やその家族を支えるうえで重要な視点	17ページ
(1) 起点は「本人の声」	17ページ
(2) 「人づくり」と「地域づくり」	17ページ
(3) 「フレイル予防」と「認知症予防」	17ページ
(4) 早期の「発見・受診・診断・対応」	17ページ
(5) 認知症になっても「自分らしく」	17ページ
7. 2023年度までの目標	18ページ
<知る>	
<防ぐ>	
<集う>	
<支える>	
<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"><p>&lt;複数のキーワード&gt;に沿った 2023年度までの目標 ※内容に応じて数値目標を設定する</p></div>	
8. 『ALL ふじさわ』のそれぞれの役割	22ページ
9. その他	24ページ

# 1. 背景及び趣旨

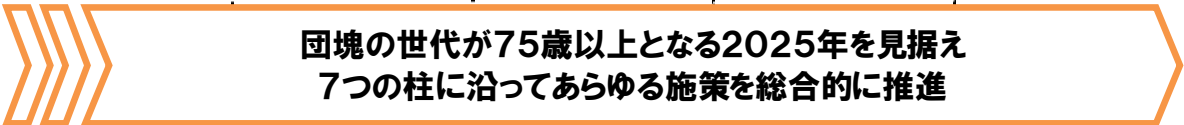
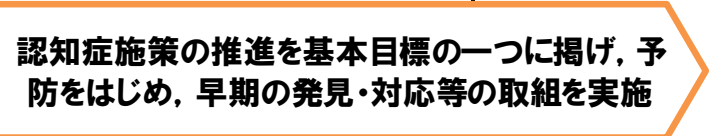

現在、国においては、団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」を作成し、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指して“認知症高齢者等にやさしい地域づくり”を推進するために、あらゆる施策が総合的に推進されています。

これを踏まえ、本市においても「いきいき長寿プランふじさわ 2020（藤沢市高齢者保健福祉計画・第7期藤沢市介護保険事業計画）」の中で、認知症施策の推進を基本目標の一つに掲げ、予防をはじめ、早期の発見・対応などに関する主な事業を位置づけ、取り組みを進めています。

しかしながら、今後さらに深刻化が予想される認知症を取り巻く課題は、市の事業を推進するだけで解決できるものではありません。認知症となったご本人（以下、「認知症ご本人」という。）やその家族が、地域で安心して日常生活を送るためには、市民一人ひとりが認知症を正しく理解する必要があるほか、市民をはじめ、地域団体、医療・介護・福祉などの関係機関、民間企業など、そして行政を含めた、多様な主体による、一体感のある取組が大変重要となります。2025年には65歳以上の5人に1人の方が認知症になるという推計もある中、すべての市民が自分の事として捉え、できることから行動に移すことが求められています。

「（仮称）藤沢おれんじプラン」（以下「本プラン」という。）は、2023年度（平成35年度）までの今後5年間にわたり、市民一人ひとりをはじめ、行政も含めた多様な主体が、それぞれの役割を捉える中で、できることから行動に移すきっかけづくりと、「ALLふじさわ」として、みんなが取り組む一体感を創り出すことを目的に作成します。さらに、これらの取組を重ねていくことで、地域共生社会の実現に向けた“支えあいの地域づくり”につなげていきます。

図表1 国及び藤沢市の認知症施策の推進状況

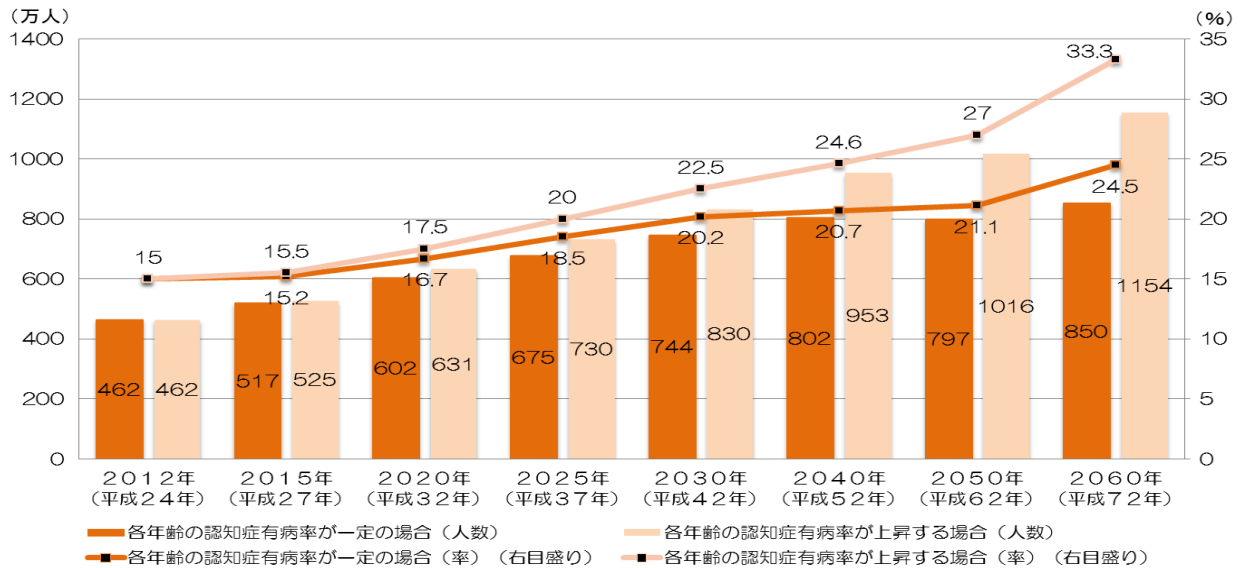
	2018年度 （平成30年度）	2019年度 （平成31年度）	2020年度 （平成32年度）	～	2025年度 （平成37年度）
国	認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)				
					
藤沢市	いきいき長寿プランふじさわ2020				
					

## 2. 認知症の人の状況

### (1) 全国の状況

国の調査研究では、認知症高齢者の状況として、2012年（平成24年）では全国で約462万人（高齢者の15%）、また、軽度認知障がい（MC1）のある高齢者は、約400万人（高齢者の13%）と推計されています。さらに今後は、高齢化の進展とともに、2025年には約700万人となり、65歳以上の5人に1人が認知症になると推計されています。

図表2 65歳以上の認知症患者の推定者と推定有病率



○長期的縦断的な認知症の有病率調査を行っている福岡県久山町研究データに基づいた

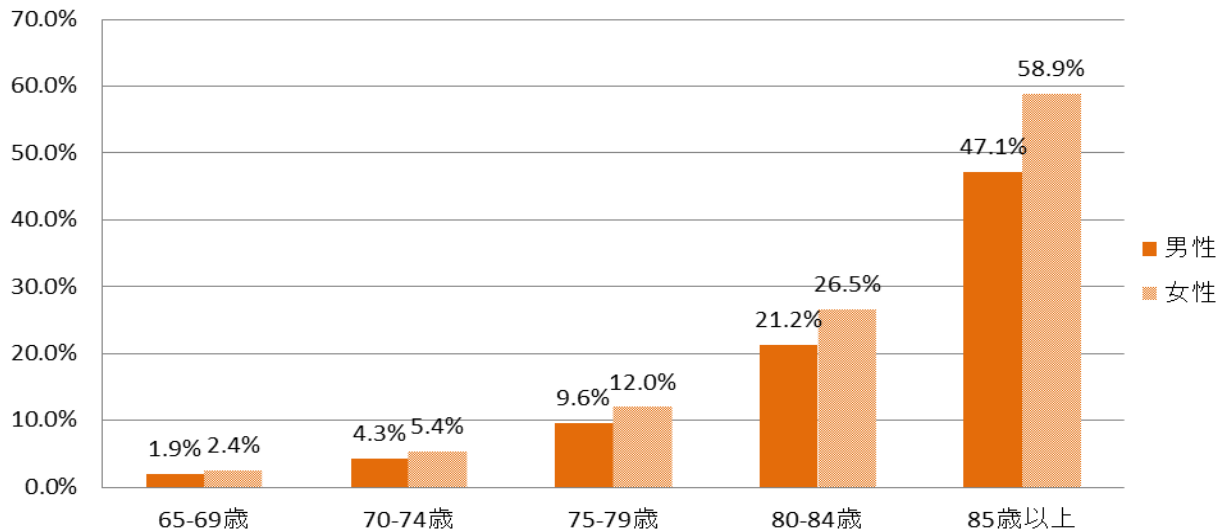
- ・各年齢層の認知症有病率が、2012年以降一定と仮定した場合
- ・各年齢層の認知症有病率が、2012年以降も糖尿病有病率の増加により上昇すると仮定した場合

※久山町研究からモデルを作成すると、年齢、性別、生活習慣（糖尿病）の有病率が認知症の有病率に影響することが分かった。

本推計では2060年までに糖尿病有病率が20%増加すると仮定した。

資料：「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業九州大学二宮教授）より内閣府作成

図表3 2012年の性別・年齢階級別認知症有病率



○出典：厚生労働科学研究費補助金 厚生労働科学研究事業

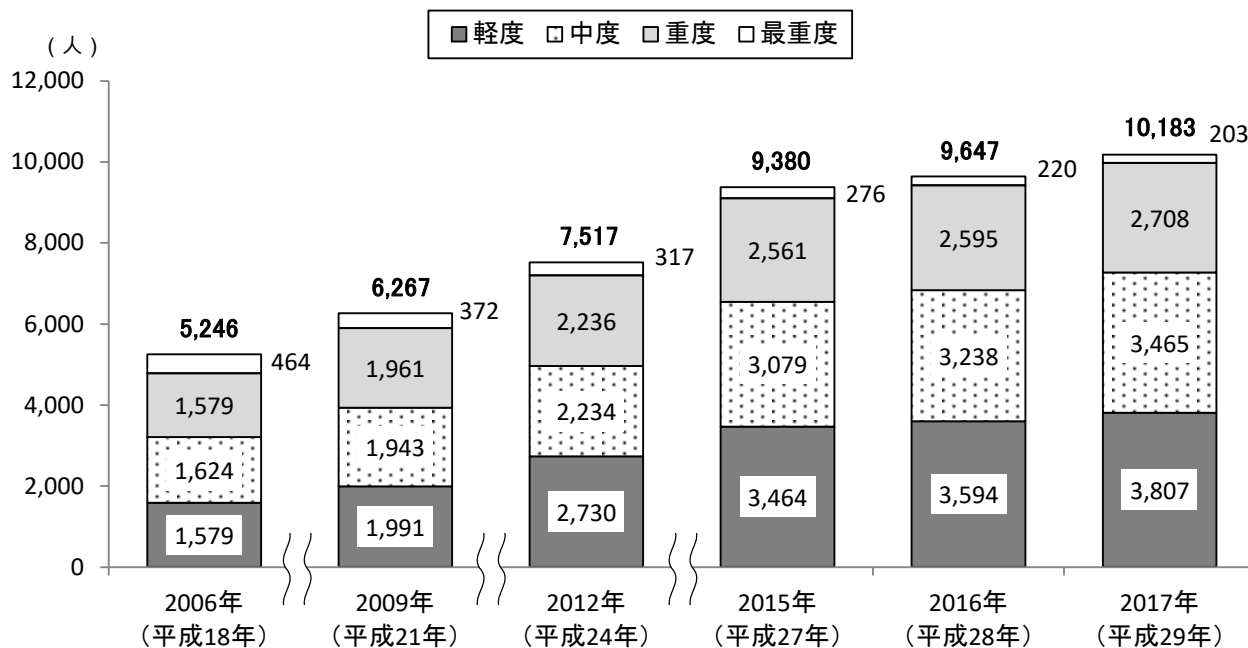
「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」平成26年度 総括・分担研究報告書

(2) 本市の状況

2017年(平成29年)4月1日現在、高齢者人口は102,198人、高齢化率は23.8%となっております。

介護保険認定調査の「認知症高齢者の日常生活自立度」(図表4)によりますと、認知症があると認められた高齢者の推計は、2017年度(平成29年度)9月末現在で10,183人となっており、毎年増加傾向にあります。

図表4 藤沢市の認知症高齢者の推移



※平成24年までは各年度末現在。平成27年度以降は9月末現在。 ※住所地特例該当者を含む

※『いきいき長寿プランふじさわ2020』から引用

【トピックス】

<例>

「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」の概要などを

トピックス形式でご紹介 など

### 3. それぞれの立場からの認知症

認知症を取り巻く課題は、認知症ご本人である個人だけの問題ではありません。夫婦や家族全員、さらには地域においても、深刻なものとなることも多く、市民一人ひとりが自分の事として捉えていく必要があります。

ここでは、「本人ミーティング」や「個別インタビュー」、地域活動に参加する中で伺ってきた、認知症に関するそれぞれの立場からの声をはじめ、これまで市が実施したアンケート調査結果などの内容についてご紹介します。

#### (1) ご本人からの声

認知症ご本人の『わたしに関することは、どんなことでも最初にわたしに聞いてください。わたしのことを、わたしを抜きにして決めないでください。』という言葉があるように、何よりもまず、ご本人の声を聞き、受け止めることが大切です。

ここでは、「本人ミーティング」や「個別インタビュー」などで伺った、認知症ご本人からの声をご紹介します。

<例>

- ～ 若年性認知症の方々の声 ～
- ～ 認知症高齢者の方々の声 ～ など

#### (2) ご家族からの声

認知症の人の日常生活は、様々な方の支援で成り立っていますが、身近で支えているのは、ご家族です。『ケアラーケア（介護者への支援）』を進めていくためには、介護者であるご家族の声も大変重要です。

ここでは、「個別インタビュー」などで伺った、認知症になった方のご家族からの声をご紹介します。

<例>

- ～ 家族が認知症になった方々の声 ～
- ～ 夫や妻が認知症になった方々の声 ～ など

【トピックス】

<例>

「本人ミーティング」や「個別インタビュー」の概要などを  
トピックス形式でご紹介 など

(3) 地域からの声

地域の中では、認知症の方々を支える取組について、子どもから高齢者まで、あらゆる世代で、様々な活動が行われています。

ここでは、認知症サポーター養成講座や認知症カフェなど、地域の方々が集まる場面や機会でごった、地域からの声をご紹介します。

<例>

～ 子ども達の声 ～

～ 大人の声 ～

～ 高齢者の声 ～

～ 認知症の人と関わっている人の声 ～ など

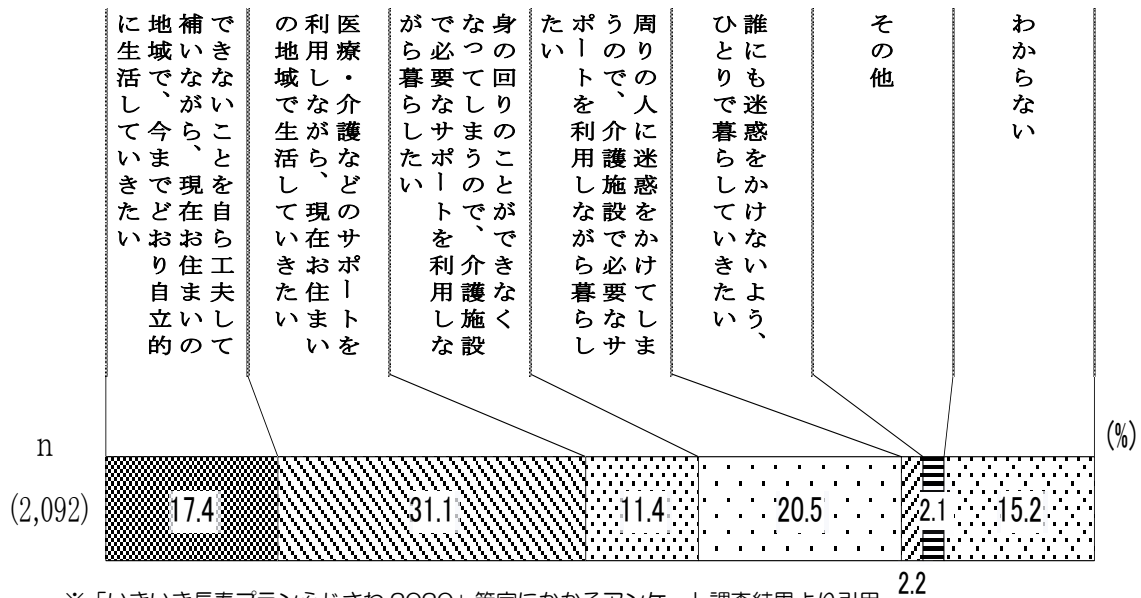


#### (4) アンケート調査からの声

##### ①認知症になった場合の暮らし方

認知症になった場合に、自立またはサポートを受けながら、現在住んでいる地域で生活していきたい方の割合は 48.5%、介護施設で生活していきたい方の割合は 31.9%で、認知症になった場合でも、住み慣れた地域での生活を望む方が多いという結果でした。

図表5 認知症になった場合の暮らし方

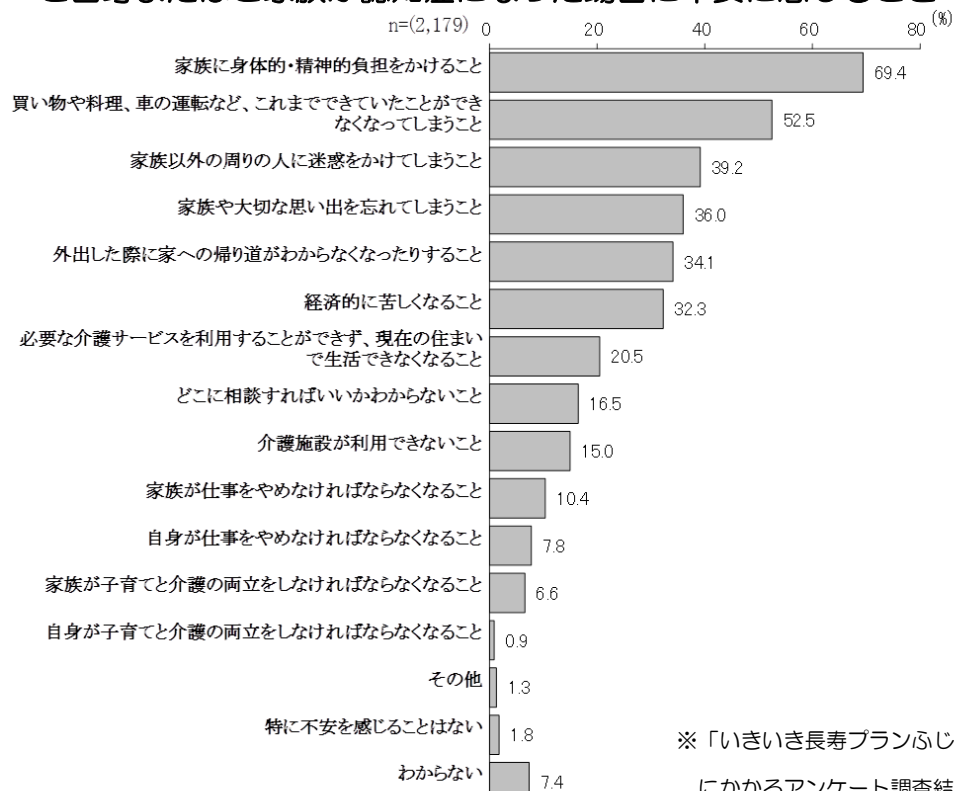


※「いきいき長寿プランふじさわ 2020」策定にかかるアンケート調査結果より引用

##### ②ご自身またはご家族が認知症になった場合に、不安に感じること

「家族に身体的・精神的負担をかけること」が7割弱で最多という結果でした。

図表6 ご自身またはご家族が認知症になった場合に不安に感じること



※「いきいき長寿プランふじさわ 2020」策定にかかるアンケート調査結果より引用

③主な介護者が不安に感じる介護等

「外出の付き添い、送迎等」が 37.9%で最も多く、次いで「認知症状への対応」が 24.6%、「入浴・洗身」、「食事の準備（調理等）」が 21.9%となっています。

④介護認定の申請をした主な原因

「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が 22.8%で最も多く、次いで「骨折・転倒」が 22.2%、「高齢による衰弱」が 20.3%となっています。認知症（アルツハイマー病等）については 17.9%となっています。

【コラム】

<例>

“認知症ご本人”や“認知症のご家族”の声などを、

コラム形式でご紹介 など

## 4. 現在の取組

### (1) 各機関での取組

#### ① 藤沢市医師会

- 認知症初期集中支援チームへの認知症サポート医の派遣
- 「認知症受け入れ医療機関情報」
- 「認知症であっても、よく生きるために」をテーマとした在宅医療・介護連携多職種研修会の開催（2018年（平成30年）9月実施）

#### ② 藤沢市歯科医師会

- 会員向け「認知症対応力向上研修」の実施
- 認知症予防にもつながるオーラルフレイル予防のための出張講座などの実施

#### ③ 藤沢市薬剤師会

- 会員向け「認知症対応力向上研修」の実施
- 認知症の薬に関する講演会などの開催

### (2) 相談・介護事業所等での取組

#### ① いきいきサポートセンター（地域包括支援センター）

- 地域における認知症の理解を促すための認知症サポーター養成講座の開催
- 地域での見守りにつなげるための商店や金融機関、配達業者などとの連携

#### ② 小規模多機能型居宅介護

- 地域における認知症高齢者を含めた多世代交流の実施
- 民間企業と協働した地域での見守り訓練の実施

(3) 民間企業での取組（包括連携協定締結企業との取組を中心に記載）

①セブン&アイグループ3社（株式会社イトーヨーカ堂、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、株式会社ヨークマート）

- 職員向け 認知症サポーター養成講座の実施
- えのカフェ（市直営の認知症カフェ）への協力
- おれんじシンポジウムへの参画

②メルシャン株式会社藤沢工場（社会福祉法人いきいき福祉会、パナソニック株式会社）

- 明治地区における「見守りチャレンジ（搜索訓練）」に関すること
- 「頭と体の健康づくりで、自らを見守り、地域を見守る」体験会の企画・開催

③株式会社グッドイーティング（日本マクドナルド株式会社フランチャイジー）

- 職員向け 認知症サポーター養成講座の実施
- えのカフェ（市直営の認知症カフェ）への協力

④かながわ信用金庫

- おれんじキャンペーンの一環として「終活」セミナーの開催

(4) 認知症カフェ・家族会等での取組

- ～認知症カフェ&交流会・家族会マップ～

※上記マップを掲載し認知症カフェや家族会などの取組をご紹介します。また、団体間同士の交流会の開催についても記載します。

【トピックス】

<例>

『おれんじキャンペーン』における取組をトピックス形式で紹介

- ・江の島シーキャンドルライトアップ
- ・シンポジウム
- ・関係機関とのコラボ企画 など

(5) 地域での取組（全 13 地区）

【片瀬地区】

<例>

- 地区社協と片瀬地区ボランティアセンター運営委員会の共催による  
認知症サポーター養成講座の開催（予定）
- 高齢者の通いの場における「認知症予防」と「終活セミナー」の開催 など

【鵜沼地区】

<例>

- 鵜沼地区郷土づくり推進会議による「脳活倶楽部（笑いヨガ&交流会）」や  
「若年性認知症家族の交流会」の実施
- イトーヨーカドー藤沢店における「えのカフェ」の開催 など

【辻堂地区】

<例>

- 辻堂団地自治会主催の認知症講座の開催
- 地域のコミュニティスペースを活用した「子ども向け認知症サポーター  
養成講座」と「えのカフェ」の同時開催 など

【村岡地区】

<例>

- 介護予防人材育成事業「公園フィットネス（コグニサイズ）」の実施
- 地域の自主グループによる「コグニサイズ」の実施 など

【藤沢地区】

<例>

- 地域ささえあいセンターにおける認知症カフェの開催
- 地域の自主グループによる「コグニサイズ」の実施 など

【明治地区】

<例>

- 中学校文化祭における地域のオレンジカフェによる普及啓発の取組
- 地域の商業施設における「えのカフェ」の開催 など

### 【善行地区】

<例>

- 善行団地での地域の社会福祉法人による認知症カフェの開催
- 地域の小・中学校における認知症サポーター養成講座の開催 など

### 【湘南大庭地区】

<例>

- 小地域ケア会議による中学校への特別授業（地域の方々による寸劇）
- 地域の自主グループによる「コグニサイズ」の実施 など

### 【六会地区】

<例>

- 地域の協力団体による認知症サポーター養成講座の開催
- 高齢者通いの場での「コグニサイズ」の実施 など

### 【湘南台地区】

<例>

- 地区社協主催「湘南台一日健康デー」での認知症予防講演会
- イトーヨーカドー湘南台店における「えのカフェ」の開催 など

### 【遠藤地区】

<例>

- 地域の医療機関における「認知症カフェ」の開催
- 地域の自主グループによる「コグニサイズ」の実施 など

### 【長後地区】

<例>

- 長後地区郷土づくり推進会議による長後地区時事問題講演会「人ごとじゃない！ 支えあい～認知症になっても安心して暮らせる長後！」の開催
- 地域の中学校のPTAのほか地元教習所の協力による  
認知症サポーター養成講座の開催 など



【御所見地区】

<例>

- 「ご近所で近助たより」（全戸配布）での認知症や認知症サポーターに関する普及啓発
- 地域の介護保険事業所における認知症カフェの開催 など

【トピックス】

<例>

高齢者の方々を対象とした“地域見守り活動に関する協定”  
などに関する取組をトピックスとして紹介 など

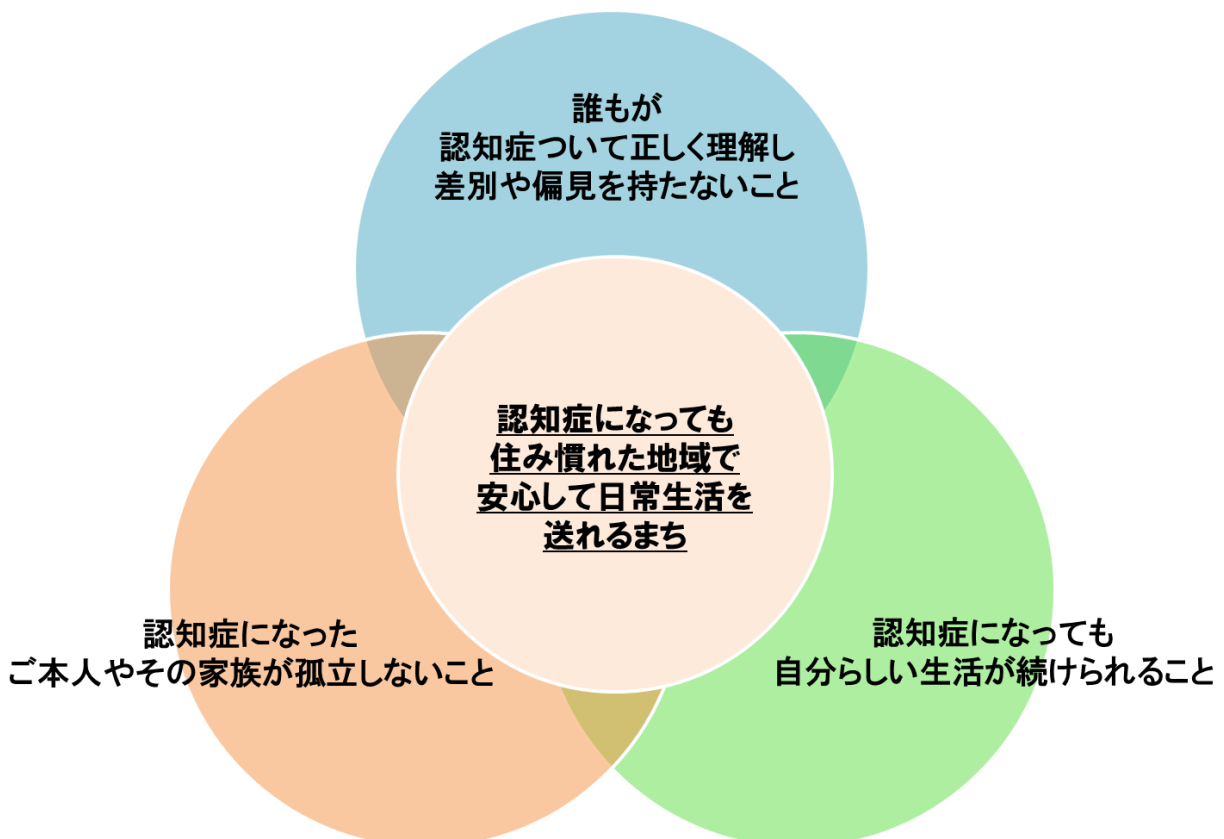
## 5. めざす地域社会像

# 認知症になっても 住み慣れた地域で 安心して日常生活を送れるまち

- 誰もが認知症について正しく理解し差別や偏見を持たないこと
- 認知症になっても自分らしい生活が続けられること
- 認知症になったご本人やその家族が孤立しないこと

今後さらに深刻化する認知症に関する課題に対し、自ら認知症予防に取り組むことは必要です。しかしながら、認知症は確実に予防できるものではありません。そのため、認知症になっても、住み慣れた地域で、安心して住み続けられるまちを目指すことが重要です。

本市では、高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるよう、地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取り組みを進めています。この“住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けること”は、若年性認知症を含めた全ての認知症ご本人やその家族にとって大変重要なことで、その実現のためには、認知症の正しい理解や、日常生活を継続できる環境など、本人の思いや希望に寄り添った支援が必要です。



## 6. 認知症の人やその家族を支えるうえで重要な視点

- (1) 起点は「本人の声」
- (2) 『人づくり』と『地域づくり』
- (3) 『フレイル予防』と『認知症予防』
- (4) 早期の『発見・受診・診断・対応』
- (5) 認知症になっても『自分らしく』

### 【トピックス】

<例>

『藤沢市おれんじキャンペーン』における取組をトピックス形式で紹介

- ・江の島シーキャンドルライトアップ
- ・シンポジウム
- ・関係機関とのコラボ企画      など

## 7. 2023年度までの目標

# し 知る

国の調査研究などでは、2025年には65歳以上の5人に1人の方が認知症になるという推計もあり、認知症は誰にでも起こりうる問題です。

人生100年時代を迎え、自分自身が、あるいは家族の誰かが認知症になる可能性は高いため、一人ひとりが「我が事」として捉えることが大切です。また、認知症に対する不安や恐怖から受診を躊躇し、その後の治療が遅れる場合もあります。

まずは、地域住民のほか民間企業や行政など、多様な主体の一人ひとりが、認知症サポーター養成講座や認知症ご本人の声に寄り添う機会などを通して、認知症について“知る”ことが必要です。

### 2023年度までの目標などを設定する

<例>

- ・正しい知識や対応などを学ぶ場や機会の充実に関すること
- ・認知症ご本人の声に寄り添う機会の充実に関すること など

# ふせ 防ぐ

生活習慣病を予防・改善することや、コグニサイズなどで体を動かしながら、脳の活性化に取り組むことなどは、認知症の予防や改善に効果的であると言われています。

そのため、生活習慣病予防や介護予防として特に体を動かすことのほか、人との関わりや社会とのつながりをもった様々な活動の重要性について認識し、一人ひとりが予防や改善に向け、認知症を“防ぐ”取組などに参加することが必要です。

## 2023 年度までの目標などを設定する

<例>

- 予防や改善に向けた取組や機会の充実に関すること
- 外出や地域活動などへの参加状況に関すること など

# つど 集う

長年親しんできた楽しみや趣味などを、いつまでも続けたいという思いがあっても、認知症になってしまうと、活躍の場や機会などが減り、仲間だった人たちや居場所からも離れ、孤立してしまう場合があります。しかし、認知症になっても、集える場があることや、可能な範囲で自分の役割を持っていただける機会があることは大切なことです。

そのため、認知症ご本人が楽しめる活動を続け、活躍できる場や機会などの充実に向けた取り組みが必要です。さらには、認知症に関する悩みや不安などの共有や、情報交換などができる場や機会などに、市民一人ひとりのほか、認知症であるご本人やその家族を含めた、あらゆる方々が“集う”ことは大変重要です。

## 2023 年度までの目標などを設定する

<例>

- 認知症ご本人の役割や活躍の場の充実に関すること
- 認知症について集える場や機会の充実に関すること など

# 支える

認知症になっても、住み慣れた地域で安心して日常生活を送るためには、介護保険制度や市の事業などを進めるだけでなく、市民一人ひとり、さらには地域が、認知症ご本人やその家族の困りごとや希望といった思いを受け止め、一人ひとりの声に寄り添った支援が必要です。

そのため、地域における、さりげない見守りや支えあいに関する取組と、多様な主体がつながり、ALLふじさわとして、地域のつながり（ネットワーク）で“支える”取組が大変重要です。さらに、認知症ご本人の思いに寄り添い、意思決定を“支える”取組の充実が求められています。

## 2023年度までの目標などを設定する

<例>

- 多様な主体が地域でつながる機会や場の充実に関すること
- 認知症サポーターなどの支え手の充実に関すること など

## 8. 『ALLふじさわ』のそれぞれの役割

【地域住民】

### 地域住民の方々の役割

※「ALLふじさわ合同ミーティング」の結果をふまえ記載

【地域団体等】

### 地域団体等の役割

※「ALLふじさわ合同ミーティング」の結果をふまえ記載

【医療・介護・福祉関係機関】

### 医療・介護・福祉関係機関の役割

※「ALLふじさわ合同ミーティング」の結果をふまえ記載



【民間企業】

## 民間企業の役割

※「ALLふじさわ合同ミーティング」の結果をふまえ記載

【行政】

## 行政の役割

※「ALLふじさわ合同ミーティング」の結果をふまえ記載

【トピックス】

<例>

～ ご本人の役割 ・ ご家族の役割 ～ など

## 9. その他

～本市の認知症施策について～

### (1) 認知症予防の推進

認知症予防のための事業の充実と普及啓発

#### ①介護予防事業

#### ②認知症予防事業

- ・介護予防事業（ロコモ予防チャレンジ講座、元気はつらつ健康講座）
- ・認知症予防教室（認知症予防講座、認知機能アップ教室）
- ・生活習慣病予防事業
- ・いきがい、居場所、多世代交流・地域交流などの社会活動の推進

### (2) 認知症支援体制の充実・強化

#### 1) 認知症の早期発見・早期受診・診断・対応

- ・認知症初期集中支援チーム（認知症サポート医）
- ・認知症簡易チェックの普及
- ・もの忘れ相談及び精神保健福祉相談
- ・かかりつけ医及び認知症受け入れ医療機関情報提供等

#### 2) 「認知症になっても安心して暮らせるまち」をめざした地域づくり

##### ①相談支援体制の整備

- ・認知症サポーター、おれんじサポーターの養成
- ・認知症地域支援推進員
- ・認知症ケアパスの活用
- ・家族介護者教室や家族会を通じた家族支援
- ・若年性認知症相談会
- ・介護職員、ケアマネ等の認知症対応に関する研修会
- ・成年後見制度をはじめとした権利擁護の推進

##### ②居場所づくり、地域の見守り

- ・認知症カフェ、認知症の方をさりげなく受け入れてもらえる場
- ・商業施設や交通機関、民間企業等の協力
- ・徘徊高齢者SOSネットワーク、高齢者位置情報提供事業

##### ③普及啓発

- ・子どもを含む若い世代への普及啓発
- ・認知症、若年性認知症に関する講演会
- ・ふじさわ安心ダイヤル24

**一人ひとりがはじめる  
認知症の人を支える“まちづくり”  
～（仮称）藤沢おれんじプラン～**

発行 2019年（平成31年）

藤沢市 福祉健康部 地域包括ケアシステム推進室

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1  
TEL 0466-25-1111 FAX 0466-50-8412

藤沢市のホームページ  
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>